



チェンマイ大学

(タイ王国)

(Chiang Mai University)

交流協定締結年月日：1990年4月24日 主管学部：農学部



チェンマイ大学正門



第5回チェンマイ大学・香川大学合同シンポジウム



学生交流の様子

国際交流の特色(大学紹介)

タイ北部のチェンマイ市(首都バンコクから北に飛行機で1時間)に位置する。1964年にタイ北部に最初に設立された高等教育機関として、教育、研究、地域貢献、国民文化・環境の保全に多大な実績を上げてきた。タイの大学ランキングで教育と研究の両面で最高レベルの評価を受けている。2014年に創立50周年を迎えた。市内3ヶ所と周辺1ヶ所を合わせたキャンパスは、1400haと広大である。20学部と3研究所を有し、学部生約27,000人、大学院生約7,700人が在籍する。キャンパス内に学生寮のビル群がある。留学生用の上級な寮もある。近年の国際化は目覚しく、ASEANのハブ大学としてラオス、カンボジア、ベトナム等の周辺国から積極的に学生を受入れている。人文学部には日本語学科に加えて日本研究センターもある。チェンマイは京都のように美しい古都であり、文教と観光の都市である。標高は約300mあり、バンコクに比べて気候は涼しく、日本人には暮らしやすい。

交流実績(平成25年度～27年度)

教育学部

年度	H25年度	H26年度	H27年度
受入・派遣			
学生受入	0	7	8
研究者・職員受入	0	0	2
学生派遣	5	7	11
研究者・職員派遣	2	9	4

法学部

年度	H25年度	H26年度	H27年度
受入・派遣			
学生受入	0	0	0
研究者・職員受入	0	0	0
学生派遣	0	0	4
研究者・職員派遣	2	0	0

経済学部

年度	H25年度	H26年度	H27年度
受入・派遣			
学生受入	0	0	0
研究者・職員受入	0	0	2
学生派遣	5	9	10
研究者・職員派遣	3	2	4

医学部医学科

年度	H25年度	H26年度	H27年度
受入・派遣			
学生受入	4	5	4
研究者・職員受入	4	10	13
学生派遣	2	10	5
研究者・職員派遣	2	11	3

医学部看護学科

年度	H25年度	H26年度	H27年度
受入・派遣			
学生受入	5	5	6
研究者・職員受入	3	6	1
学生派遣	6	6	6
研究者・職員派遣	4	7	1

工学部

年度	H25年度	H26年度	H27年度
受入・派遣			
学生受入	0	0	0
研究者・職員受入	2	3	0
学生派遣	14	8	10
研究者・職員派遣	7	3	4

農学部

年度	H25年度	H26年度	H27年度
受入・派遣			
学生受入	3	7	21
研究者・職員受入	1	0	14
学生派遣	1	17	66
研究者・職員派遣	6	8	3

インターナショナルオフィス

年度	H25年度	H26年度	H27年度
受入・派遣			
学生受入	0	0	1
研究者・職員受入	7	0	0
学生派遣	6	48	8
研究者・職員派遣	2	43	2

※平成26年度 第5回チェンマイ大学・香川大学合同シンポジウムの開催(9/10~12)
研究者・職員、41人派遣／学生、39人派遣

教育学部
CMU 教育学部
教育学部

教育学部とCMUの人文学部は2011年2月に細則を結びました。5年前から、毎年3月にチェンマイ大学人文学部へ学生を連れて行きます。約2週間程度の異文化交流プログラムの特徴は下記の通りです。1)バディー制度。タイでの活動は主にCMUの学生と一緒にです。2)チェンマイで日本語を勉強している高校生の家族とのホームステイ。3)タイの地方の小中学校を訪問し、3泊4日の交流・ホームステイ。4)CMUでCMUの教員によるタイ文化・歴史・経済・少数民族等の授業を受ける。5)事前研修で、出発する前にタイ語の授業を3回開いてからタイに行く。6)CMUの学生を香川大学で受け入れる。7)附属学校での授業参加・タイ文化・タイ語の紹介等。8)教育学部での授業参加。教員を目指している学生にとっても、コミュニケーション能力を育成するのにとても役立ちます。平成28年度第6回共催シンポジウムに向けて、今後も両校の交流がより盛んになることを期待しています。 教育学部准教授 ポール・パテン

法学部
CMU 法学部
法学部

チェンマイ大学は多種多様で自由な大学です。数多くの学部学科があり、様々な国籍の学生が多くいます。私はチェンマイ大学に社会学部生として留学しましたが、経済学や人文、政治学等のクラスを受けました。ですので、様々な学部の先生に教えてもらい、より幅の広い知識・経験を積むことが出来ました。また、チェンマイ大学は敷地面積が広いことも魅力的です。広大なキャンパスを大学の無料バスで行き来する生活は、日本ではなかなか味わえなかったと思います。そして、タイでは日本のことが好きな方が多いので、大学やお店等で会う方々にはとても喜んで接してもらえました。日本や日本人のことを、タイの方がどのように思っているかを実感できるよい機会でした。 チェンマイ大学生として4ヶ月間生活出来たことは、今でも本当によい経験だったと思っています。 13J107 東 祐太郎

経済学部
CMU 経済学部
経済学部

4年前から香川大学経済学部とチェンマイ大学経済学部間において、お互いの学部学生及び教員のShort Visitの交流を行っています。今年度も5月にチェンマイ大学経済学部は4名の学生のShort Visitを9月に香川大学経済学部は学生のShort Visitを考えています。学生の来日時には教員も同行し、未来の共同研究成果についての発表会及び打合せも行ってます。また、チェンマイ大学経済学部では毎年8月にアジア経済発展の学会および1月にInternational Conference of the Thailand Econometric Societyを予定しており、香川大学経済学部の教員は、2、3年前から参加を考えてます。最後に、香川大学経済学部の学生数人はチェンマイ大学にLong Visit(6ヶ月)にも行っています。8月のJoint Symposiumの後には、お互いの交流にもっと期待ができてと思います。 経済学部 教授 ラナデ・R. R

医学部
CMU 医学部
医学部

医学部はCMU医学部と、看護学部はCMU看護学部と、相互に学生の派遣事業を行っています。平成27年3月から4名、平成28年3月から1名の医学部5年生が約4週間にわたる医学研修を受けました。一方、平成28年3月から約4週間、CMU医学部4年生3名を受け入れました。いずれも双方の学生同士が大いに刺激し合う良い機会であり、香川とチェンマイを結ぶ絆がより強固となったように思います。 一方、教員の交流も頻繁です。私も夏季にチェンマイ大学を訪問する機会をいただき、学長や医学部長をはじめとする先生方と、周辺の諸国や地域への交流の拡大も含めて、今後の国際交流に関する具体的な協議を行うことが出来ました。さらにさくらサイエンス事業や、JST草の根事業等の様々な交流事業が実施されており、これらを基盤として、希少糖研究や遠隔医療、保健衛生等の多方面での共同研究が、盛んに推進されています。 医学部医学部教授 和田 健司

医学部看護学部
CMU 医学部看護学部
医学部看護学部

2012年3月に医学部看護学部は、チェンマイ大学看護学部と学術交流協定に関する実施細則を締結しました。その後、双方向での交流が開始され、2015年度はチェンマイ大学から6名の学部生と1名の教員が、本学からも同じく6名の学生と教員が短期留学によりお互いの大学および附属病院を訪問しました。短期間の交流ですが、双方ともお互いの看護や医療を学び、そして文化を体験しながら、そして何よりも、それぞれの学生と教員と一緒に強い絆を深めており、益々充実した交流活動になって来ています。2016年度には、チェンマイ大学看護学部と香川大学医学部は国際学会をチェンマイで開催します。看護職者の共同研究の予定もあります。様々、ご協力いただいている皆様へ感謝申し上げます。 医学部看護学部教授 谷本 公重

工学部
CMU 工学部
工学部

私は協定校訪問として2回生と4回生の時に、2度チェンマイ大学を訪れました。2回生の時には一緒にプログラムで行った人達と日本の文化をチェンマイ大学の友達に英語で紹介しました。現地の人達はとても親切でチェンマイの観光地と一緒に回り、タイ人の人柄に感動しました。4回生の時には研究室で再び訪れ、自分の卒業論文を英語で現地の人に紹介しました。2回生の時とは違い研究分野の専門的な知識を英語で会話するのはとても難しかったですが、とてもいい経験になりました。また、チェンマイ大学のチナパット先生が1ヵ月半研究室に滞在した時に、密に話して英会話の勉強にもなりました。なかなか外国人と話す機会はないので貴重な経験をさせていただいたと思っています。 工学研究科安全システム建設工学専攻 宮田涼平

農学部
CMU 農学部
農学部

本学とチェンマイ大学(CMU)との学術交流協定の締結後に、二度のJICAプロジェクト(1993-98, 2003-06)で、多くの教員・研究者が往来して植物バイオテクノロジーや省農薬技術の指導・研修が行われ、これが希少糖、生物資源利用、農業経済、植物病理・栄養、昆虫等の多様な共同研究に進展しています。CMUの農・農産・理の3学部から多数の優秀な留学生を受け入れ、特に2002年からのAAP特別コースによってその数が増えました。派遣留学の人気も高いです。両大学間の広範で多数の交流実績に基づき、本学はCMUを海外国際交流拠点校と定め、そのプラットフォームとしての合同シンポジウムの開催を2007年からCMUにて始め、農・工・医学部等の教職員・学生45人が参加しました。その後、交流は文系3学部等にも拡大し、2回目を2008年に本学にて(CMUの43名を招聘)実施し、以降隔年で交互に開催しています。2009年からの農学研究科のアジア人財資金構想事業以降、食の安全を学ぶ留学生を輩出し、JASSO支援のSSやSVプログラムの実績も挙げました。修士課程のダブルディグリープログラムが2012年から始まり、CMU側の1名が修了し、続いて双方向で参加学生が修学中です。 農学部教授 片山健至

インターナショナル
CMU インターナショナル
インターナショナル

インターナショナルオフィスは、全学共通科目の授業の一環として、平成24年から毎年、学生を同大学へ2週間ほど引率してコミュニケーション能力向上の研修を実施しています。他に派遣に関しては、毎年2,3名の学生を同大学社会学部に派遣できるようになりました。受け入れは、日本語初級と英語による授業を含むSanuki Programという受け入れプログラムを実施して、日本語能力を有しない特別聴講生を受け入れています。平成28年度前期までのチェンマイ大学からの実績は2名となっています。